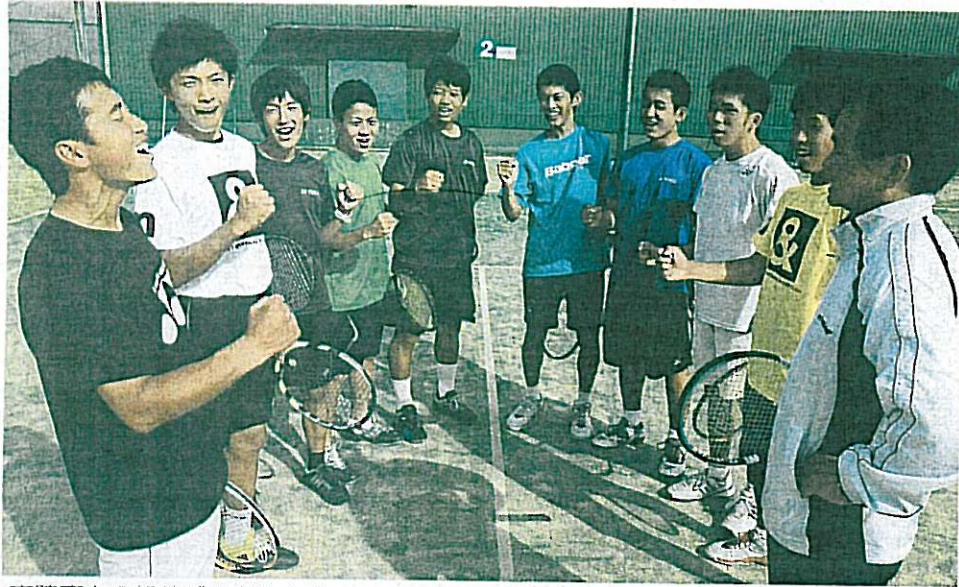


# 選抜テニスV 相生学院高

# 震災辞退校と親善試合

福岡市で3月に開かれた「第33回全国選抜高校テニス大会」(読売新聞社など主催)で、県勢初の男子団体優勝を果たした相生学院高が6月12日、東日本大震災の影響で出場辞退した東陵高(宮城県気仙沼市)との親善試合を加古川市で行う。相生学院高テニス部の荒井貴美人監督(56)が「高校テニスの大舞台で戦うことができなかった生徒たちが、元気を取り戻すきっかけになれば」と呼びかけ、実現した。相生学院高の選手たちは「互いに全力で戦い、思い出に残る試合にしたい」と意気込んでいる。

宮城・東陵と来月12日



東陵高との親善試合が決まり、健闘を誓う相生学院高の選手ら(加古川市神野町で)

東陵高は気仙沼市内の高校にあつたため、津波による被害は免れたが、自宅が被害を受けた部員も多く、震災直後は交通機関がマヒしていたことなどから、3月20日開幕の同大会の出場を辞退した。

震災の被害が甚大なことから、大会実行委は大会の開催が可能かどうかを検討したが、東陵高などから「自分たちの分まで頑張ってもらい、被災者に勇気と希望を与える大会にしてほしい」との要望があつたため開催を決めたという。

荒井監督が5月上旬、東陵高の鎌田淳監督(46)に電話で親善試合を申し込んだところ、鎌田監督は「僥

勝校と試合ができるなんてめつたにない機会。ありがたい」と快諾。東陵高の選手たちに伝えると、大会を勝ち抜いた強豪との対決を喜んだという。

試合会場は、東陵高近くのテニスコートが現在も津波で浸水したまま使用できないため、相生学院高が普段練習で使用している加古川市神野町のテニススクール「トップランテニススクール(石守校)」にした。

大会と同じく、シングルス3本ダブルス2本の団体戦で、3本先取した方が勝ち。相生学院高は同大会の優勝メンバー9人が出場するという。

3年の池川浩史主将(17)は「東陵高などの被災地の選手たちが大会の開催を望んでくれなかったら、優勝はできなかった。その恩返しのために、ふがいない試合は出来ない。大会で発揮しような力を出して、いい試合がしたい」と声を弾ませていた。

## 「元気取り戻して」